小学校

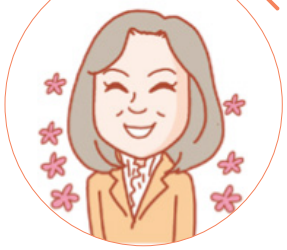
# 光村ポケット

国語

子どもの問いがつなぐ

## 個別最適な学び×協働的な学び

教えて！青山先生



個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現するためには、まず、一人一人の「学びたい」を引き出すことが重要です。そのとき、学びのエンジンになるのが「問い」。「問い」がもてると「学びたい」「自分の考えを聞いてほしい」という思いが生まれて、友達の考えも聞きたくなってきます。＂個別＂と＂協働＂をつなぐ「問い」について、筑波大学附属小学校の青山由紀先生に語っていただきました。

### 問いを交流しよう



「問いをもとう」と言われて、すぐに問いを見つけられる子は多くありません。そこで、「読むこと」では、全文通読後に「①思ったこと・感じたこと」「②ちょっとした疑問」「③みんなと考えたいこと」の三つに分けて、初発の感想を書いてもらっています。「ごんぎつね」（4年）では、ある子が②に「どうしてけむりのことが書いてあるんだろう。」と書いたところ、別の子から「これは③にしようよ。」と言われていました。このように、自由に交流すると、一人の問いがみんなの問いになって、ともに追究していく場面が生まれます。

### 気軽に問いを見つけよう





「固有種が教えてくれること」（5年）では、単元扉にある２種のウサギの絵を見るだけで、「えぇっ、こっちの黒いほうもウサギなの。」「茶色のほうはよく見るから、黒いほうが『固有種』ってことじゃないかな。」などと、それぞれに「問い」が出てきます。何もないところからは「問い」は生まれませんが、一つ「問い」をもてれば、子どもの心が動き始め、「問い」が「問い」を呼びます。素朴な疑問も、やがて質の高い「問い」になります。教科書の中から、子どもが「問い」をもちそうなところを見つけることが、教材研究としても大事になってくるでしょう。

### 問いをもって学び合おう



「くちばし」（1年）で図鑑作りを行った際には、同じ鳥を選んだ子どうしで、真剣に、楽しく学び合う姿がありました。低学年は、活動ベースで課題意識をもつことが、「どう書けばいいんだろう。」「もっといい言葉はないかな。」という「問い」につながります。このとき、誰と学ぶかなど、ある程度、学び方を子どもたちに委ねることが、主体的に学習に取り組む態度をはぐくんでいきます。

### 必ず自分の問いに戻ろう

一斉授業やグループワークなどで、個別最適な学びを成立させるには、条件があります。それは、みんなで学び合っているときにも、子どもたち一人一人が自分の「問い」をもち続け、自分なりに考えること。そして、学習後に、自分はどこまで分かったのか、次はどうしたいのかを書いて振り返ることです。個の問いから学びが始まって、みんなで協働的に学び、最後には個の問いに返る、そしてまた次につなげていく、このようなサイクルが、一人一人の学びを保障し、活用・転用できる言葉の力を育てるのです。



光村図書

発行日 2024年2月1日
発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト
光村図書

教授用資料 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。